

平成29年度事業報告

2018年 3月31日
公益財団法人 日本セーリング連盟

平成29年度事業報告

公益財団法人 日本セーリング連盟

＜全般＞

2017年度は、セーリングワールドカップシリーズ蒲郡大会の成功など、2020年東京オリンピックに向けての活動を契機として、セーリングへの関心が高まった。

1. 2020東京オリンピック・パラリンピックへ向けて

- ・セーリングワールドカップ蒲郡大会、RS:Xワールド・チャンピオンシップ、470ジュニア・ワールド・チャンピオンシップ、テーザー・ワールド2017と国際大会、世界選手権大会が立て続けに開催され、成功裏に終了した。
- ・国際大会開催にあわせオリンピックレース運営担当者の人材確保と育成を促進した。
- ・2020開催国として、より多くのメダル獲得に向けた選手強化の充実を図った。
- ・オリンピック応援フラッグリレーを開始し、日本各地でのオリンピックへ向けての盛り上げとセーリングの普及振興に務めた。

2. セーリング・スポーツの発展振興と安全確保

- ・アメリカズカップ、ユース・アメリカズカップのチームジャパンの応援活動を行った。
- ・ジャパンカップ、パールレース、小笠原レースなど国内の外洋レース、大型艇レースの一層活性化が進んだ。
- ・障がい者セーリング推進委員会をテコに、障がい者セーリングの強化拠点選定はじめ障害者セーリングの普及、発展に向けての段取りを開始した。
- ・国民体育大会愛媛国体セーリング競技会、福井国体リハーサル大会が成功裏に終了した。
- ・小型船舶でのライフジャケット着用義務化に伴い、セーラーのライフジャケットの着用推進と、外洋レース艇、レース運営艇等関係船舶の特例の周知と安全管理の徹底を進めた。

3. 広く普及啓発し、セーリング界の裾野を広げる

- ・子供等を対象に全国13か所で、「海と日本プロジェクト」を活用した普及啓発イベントを開催した。また、インターナショナルボートショーで、セーリング界関係者と共同で子供からのセーリングを勧めるブース展開を行い、体験乗船などにつなげる普及啓発を行った。
- ・チャイルドルームをワールドも含む6大会で実施し、女性セーラーの大会参加の促進と観戦者の便宜を図った。
- ・セーリングのサポート企業・団体の開拓をすすめるとともに、寄付制度の整備を進め、目論見書を公表して寄付の募集を展開した。
- ・セーリング界の外のファンを開拓するために、マスコミへの情報提供や、ボートショー始め様々な機会にセーリングのPRを行った。

4. セーリング界を支える連盟組織の強化

- ・役員への女性の増加を図るための定款変更を行い、理事選挙を含む役員改選を順調に進めるとともに、公益財団法人としてのガバナンスの強化、コンプライアンスの確保をすすめた。
- ・会員管理の決済代行方式への原則全面移行を促進した。
- ・JSAFホームページの更なる充実を図った。
- ・ボートショー、海と日本プロジェクト、World Sailingアジェンダ2030対応など委員会横断的な活動を活発的に進めた。

◆総務委員会

(委員長：安藤淳 副：庄司一夫、横田昌訓)

事業内容	時期	場所	成果の概要（評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む）
1. 新たな公益財団法人としての組織運営への対応 (1) 公益財団法人への移行後3年間の活動実績・評価分析を踏まえ、関係委員会と連携しながら公益財団法人として相応しい主要会議体の運営と、それを実行する運営体制の整備・強化を推進・理事会の開催(3ヶ月毎) ・評議会の開催(年1回) ・全国加盟団体代表者会議の開催(年1回) ・総務委員会(月1回開催) (2) 中央競技団体としての更なる自律・自立を目指し、将来方向(ガバナンス強化、組織・財務基盤の強化、運営の適正・合理性の確立、加盟(特別加盟)団体との連携強化)を見据えた諸規程・基準の継続的見直しと、運用面での適正化実施委員会と連携して行う。 (3) アスリート委員会・障害者セーリング統括組織の発足に向けた取り組みを、関係委員会と連携して行う。	通年	岸記念体育館 会議室等	理事会、評議会、全国加盟団体代表者会議(含む、定期表彰)は計画通り開催することが出来た。 次年度も、定期表彰式の進行について事前準備を十分行い、受賞者に対する接遇に万全を期す。 総務委員会は、原則として月1回開催し、理事会付議事項等について討議、検討を行った。 「JSAFにおける女性活用推進施策」を策定するとともに、女性理事数の増加を実現するため、定款並びに関連規則を改訂し、理事推薦候補枠に新たに「女性推薦候補枠(3名)」を新設した。
2. 会員管理新システムへのスムーズな移行の実現(前年度から継続実施) (1) 年会費決済代行への原則移行、カード会員証の原則廃止について、加盟・特別加盟団体の要望を踏まえて適切に進める。 (2) 会員管理新システム稼働後の運用状況をモニタリングし、会員、加盟(特別加盟)団体に対する更なるサービスの質的向上を実現する。 (3) レガッタマネジメントシステム(エンタリー料の決済代行適用を含む)等の関連システムとの連動、情報共有を進め、新システムの継続的機能改善を	通年	岸記念体育館 会議室等	新システム稼働後4年目を迎え、決済代行率の向上が相当程度図られたことから、今年度に決済代行方式への原則全面移行と、カード会員証の廃止を決定し、会員、加盟団体への事前周知を図った。 但し、決済代行者の増加とともに、現行システムの使い勝手の改善要望の反映に努めるも、現行システム構成では限界があるため、次年度以降の抜本的なシステム改善に取り組む。 上記会員管理システムの抜本的改善に併せて、内閣官房からの要請を踏まえ、サイバーセキュリティ、個人情報保護の観点からの対策について、同様の対策を踏まえた結果の実施に着手する。 決済代行方式への移行に伴い、年度更新時における決済代行利用者の大幅増加にJSAF事務局とともに対応した。 次年度も決済代行率向上のため、利用者サイトに立った管理システムの継続的機能改善と電子会員証の利用方法等について、加盟団体、会員へのきめ細かな対応に心がける。 未着手のままであり、実施へ向けて継続検討を行う。
3: JSAF公認・加盟(特別加盟)団体主催行事における直轄運営の継続的実施 (1) JSAFが公認・後援し加盟(特別加盟)団体が主催するレース等の行事(日本開催の世界選手権を含む)の実施に対して、安全管理対策の徹底を監視委	通年	岸記念体育館 会議室等	前年度の安全・危機管理WG報告書に基づき、今年度主催者保険は、現行保険を小型艇対象とし、外洋艇は別立ての主催者保険の導入を外洋常任委員会主導にて行った。 次年度は、国土交通省の指導(ライフジャケットの着用)推進について、後援案件における指導、周知徹底を図っていく。

(2) 同上行事における、主催者保険の付与の徹底を継続して推進する。 4. JSAF事務局業務の効率化の推進(前年度から継続実施) (1) 事務局業務の質的向上と効率向上を進めるとともに、 (3) IT機器を含めた事務機器の効率的活用を検討し、業務の効率化と組織内コミュニケーション能力の向上を図る。 (3) JSAF運営資料のデータベース化を促進し、業務内容の質的向上を実現 5. 表彰関係活動の充実(前年度から継続実施) (1) JSAFの組織活性化に向けて、加盟(特別加盟)団体や各委員会との連携を強化しながら、定期表彰における規程や基準の見直しを進めるとともに、計画(2) 外部団体からの表彰を、セーリング活動を通じた社会的貢献をPRする有効な機会ととらえ、各種情報の収集と推薦活動を推進する。 (3) 外部団体からの表彰を受けた会員の記録を整備する。 6. 2020東京オリンピック・パラリンピック対応(前年度から継続実施) (1) オリンピック・パラリンピック準備委員会との連携を図り、2020年実現へ向けた統務委員会としての所要の業務を遂行する。 (2) 2020東京オリンピック・パラリンピック開催準備へ向けて、財政委員会他関係委員会との更なる連携により、JSAF運営体制の強化を図る。	通年	岸記念体育会館 会議室等	ワールドカップ、世界選手権等の開催が増加することから、関係委員会と連携し、主催者保険付保に万全を期す。
月1回開催の総務委員会において、課題整理を継続して行ったが、会員管理システムの移行準備、稼働後の対応、並びに新規案件の検討、支援(障害者セーリング推進委員会活動支援、等)に追われ、具体的な業務革新は深耕できていない。なお、事務局職員の増加が実現(1名)により、新システムの安定稼働、会員、加盟団体からの要望事項にはある程度対応できたが、現行会員管理システムでは改善レベルに限界があるため、次年度はシステムの抜本的改善に取り組む。	通年	岸記念体育会館 会議室等	平成29年度定期表彰は、2018年1月の全国代表者会議にて受賞者に対する表彰式(賞状、副賞授与、記念撮影)を挙行した。次年度は、定期表彰関係業務について、JSAF事務局との業務分担を明確化し、表彰式欠席者等へのフォローアップに万全を期す。
ハンザワールド広島大会に対する広島県連の日本財團への助成申請について支援を行い、連携してこれを実現した。次年度も、障害者セーリング推進委員会事業計画に基づき、同委員会の最重要課題(ハンザワールド広島大会開催支援、障害者セーリング普及・強化拠点の選定、及びハンザ広島大会調達艇の普及・強化拠点への重点配備、ワールド日本開催ドットコムにおける障害者種目の開催、2020ワールド日本開催招致、開催候補選定)の実現へ向けて取り組みに對	通年	岸記念体育会館 会議室等	

<備考:反省点等>

◆財政委員会

(委員長: 齋藤涉)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
H28年度決算案の策定	4~5月	JSAP事務局	H28年度決算案を事務局担当者、顧問会計士と連携し策定した。
H29年度1次補正予算案の策定	5~6月	JSAP事務局	H29年度1次補正予算案を事務局担当者と連携し策定した。
顧問公認会計士と打合せ	4~3月	JSAP事務局	顧問会計士と経理処理について打合せを行った。
監査法人・連盟監事対応	5月	JSAP事務局	監査法人・連盟監事の監査に立ち会い指摘事項等について対応した。
H29年度2次補正予算案の策定	2月	JSAP事務局	H29年度2次補正予算案を事務局担当者と連携し策定した。
H30年度当初予算案の策定	12~3月	JSAP事務局	H30年度当初予算案を策定した。

<備考:反省点等>

会計ソフト入力など簿記等の専門知識を有したスタッフが少なく、連盟業務全般が忙しくなると会計処理が遅れがちである。

◆事業開発委員会

(委員長: 安藤正雄 副: 師田光夫、角野吉則)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. イベントでの商品販売	毎年3月初旬	横浜みなとみらい パシフィコ横浜	セーリング業者によるセーリング普及推進の為のブース、セーリングヴィレッジ出店でJSAP物販ブースは、共同活動として物販は控えることとなりました。ポートショーキー用に出来上がったリサイクルパックの販売に新しいメンバーの店舗を導入したこと、新委員会が5日間現地入りで、アルバイト採用にて、出店。昨年度同様に、諸経費、人件費、交通費等によりメリットが大きいので、現地出店業者への委託等も含めて、また通販業者への委託等再考する必要があります。来年よりJSAP倉庫も無くなることのことであります。JSAP事務局との検討も必要となります。
2. 国体開催地でのJSAPブース出店	10月	愛媛国体	JSAPロゴ付一般用のグッズ製作を中心とする考えでいます。その他のロゴ付一般用に販売しています商品は在庫管理は勿論のこと、残数処理にも配慮し今後は、加盟団体から受注のできるような商品企画により販売活動を目標にします。
3. JSAP販売商品の管理	通年	業者への委託	商品保管、受注発送管理等の委託先を検討していますが、昨今の通販代行業者が増えていますが、当方の取り扱いが少ないでの、販路に広く傾向に向かうように思われます。今後更に研究して参ります。
4. 不動在庫の取り扱い	年度末	関係者等のイベント会場	年末の各イベントにて不動在庫商品を抽選会景品にご利用頂き良かったです。
5. その他			在庫切れ商品製作も保管倉庫発送システムなしでの管理が難しい為、現在は追加製作することを控えております。また、品質やイメージの良い商品製作に今後は心掛け、販売単価を上げるように考えております。

<備考:反省点等>

当委員会の作業が、商品製作・管理・受注・配送・受取等でありますので、発生都度の作業となります為、JSAP事務局の多大なご協力を感謝致します。今後の体制についても委員会及び事務局とご相談させて頂きたく存じます。

◆広報委員会

(委員長: 柳澤康信 副: 中里英一)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
J-Sailing刊行	3月 1回		編集・印刷・製版・発送の各協力会社にむけた金額で実施。 ハーケンジャパン様が新規広告主として1/3P掲載獲得できました。 内容はH29年度のティンギー・外洋・ウインドのレース年鑑としてまとめた。
ホームページ	通期		リニューアル改訂し、3年が経過。以下を基本方針として運営。 ・「見やすい」、「わかりやすい」、「楽しい」、「役に立つ」、ツールとする ・ホームページを核にして、会員とのセーリング・ユニティ強化を図る ・セーリングに関心を持つ一般人にも役立つ情報を提供を図る 各委員会・水域からのリクエストも増加。昨年度に増して活用される環境になってきた。 特にオリンピック準備委員会、オリンピック強化委員会への支援は十分に果たせたものと考えている。 また、「まずは体験」は定期的に更新、セーリングに関心を持つ一般人に「きっかけ」は提供してきた。 誌面版J-SAILINGの刊行回数減少に伴って掲載回数が減るスポンサー広告も、ホームページで引き続き完結。 形態を代替することでスポンサーサービスは維持できた。(これも山田敏雄氏のご協力が大きい)
プレ国体	9月	福井リハーサル国体	20年度の課題としては以下。 ・ホームページの改訂 準備委員会はじめ各委員会からバナー掲載の要望が増えてきたことにより、ホームページが混然としてきた。 ワールドカップ・オリンピック関係はじめ、各委員会・水域のページに混然なく説明できるよう、デザインの改訂を行う。 またスマートホンやipadなど、ユーザーの閲覧環境の変化位に対応できるよう、準備を進める
国体	10月	愛媛国体	・JSAP収入への貢献 現状は誌面J-SAILING刊行減少を補完する意図でのバナー広告の掲載だけであるが、メールマガジンなどメニューの拡充(総務委員会とも協議し会員メールアドレスの利用を図る) ・コンテンツの準備・手配の一層の拡充 恒常に新しいコンテンツをアップしていくかないと、読者(会員)からはサービスの低下とみなされる ・「まずは体験」コンテンツは充実してきた。一般向けにアプローチを図り、セーリングに引き込む活動を並行していく。 ・本年30年度の国体本番にむけて布石となつた。 総務部副部長として広報対応。県連・ボランティアとの顔合わせ、ローカルメディアとの挨拶滞りなく完了。
インターナショナルボートショー	3月	横浜	各レースのストリーミング中継を愛媛県セーリング連盟・地元業者と協業して実施。 また特設テント会場、その他雑誌でもリアルタイムに競技中継を行い、一般来場客からも好評を得た。 民間主体のセーリングビレッジと協業実施。事務局・普及・環境・事業開発と合同でブース展開。
その他事業	通期		30年度も継続して横断的に取り組む予定。 ・「海とつながるプロジェクト」への協力 ホームページを作成し、告知協力。またボスターや横断幕などの制作も担当。30年度も普及委員会に協力する。 ・報道への協力体制構築 30年度以降も報道関係者との接点機会を設け、セーリングに共感をもつてれるフレス担当者を増やすべく団体・オリンピック準備委員会の支援。「日の丸セーラーズ特別レポート」を12月に編集・印刷・刊行。

<備考:反省点等>

◆環境委員会

(委員長: 芝田 崇行)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
環境キャンペーン	通年	各レース会場	補助金額760,000円を支援することができました。フラッグ等の配布について問題が発生したため、今後の防止策に課題を残しました。
環境啓蒙ブックレット	通年	各イベント・レース会場	1号の配布については各レースやイベントにて配布を行い、海プロイベント等も通じて合計15000部を配布することができました。2号目の作成は着手のみで終わっているため次年度にて完成を目指します。
環境啓蒙保全活動	通年	各会場	毎年行われている団体でのエコバッグのワークショップは開催し、好評でした。ペットボトルホルダーを作成し、各イベントで配布することができました。スポンサーの拡大については成果を上げることができませんでした。
スポンサー対応策	4.5月	スポンサー企業様への訪問	現在ご協力頂いているヤンマー様、JFE様については今年度も引き続き支援いただき賛意いただくことができました。新規スポンサー企業様の拡大は成果を上げることができませんでした。
ウェブ活用			ウェブの活用は十分とはいえないませんでした。
<備考:反省点等>			

◆レディース委員会

(委員長: 富田三和子 副:長田美香子、神代幸介)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
レディース委員会	平成29年 4月21日(金) 9月30日(土)	岸記念体育館 スポーツマングラブ 愛媛県 リーガロイヤルホテル	・第1回レディース委員会は岸記念体育館で行ったので、近県の委員7名のみの出席であった。 29年度年間事業計画についてと、東京2020に向けての方向性を確認した。 ・愛媛団体の期間に行なったので、全国の委員11名が集まり、各地の委員を中心とした女子のネットワーク作りの確認をした。 ・29年度は正式な委員会を2回しか行なうことができなかつたので、30年度はできるだけ多く開催していきたい。
チャイルドルーム (全日本470級選手権大会) (470級ジュニアワールド)	平成29年 8月17日(木)～ 23日(水) 8月26日(日)～ 9月2日(土)	神奈川県 藤沢市 江の島ヨットハーバー	・全日本470級選手権大会・470級ジュニアワールドでチャイルドルームを設置。傷害保険に加入。 ・延べ54人が利用した。運営・指導者・観戦者の子どもの利用があった。 ・ほぼ継続して15日間の設置をしたので、保育士は地元藤沢の保育ボランティア団体を中心にお願いした。 団体の代表の方が中心となって保育士を確保してくださいたのでとても助かった。 ・運営と受付はレディース委員が行なうのが、平日の人材確保が大変であった。
チャイルドルーム (福井リハーサル団体)	平成29年 9月16日(水)～ 9月19日(月)	福井県 若狭和田マリーナ	・福井あわせ元気セーリング競技リハーサル大会団体に於いて、チャイルドルームを設置。傷害保険に加入。延べ利用者
		特設会場 管理棟1階	・レディース委員会3名と地元スタッフ2名で実施した。 ・設置場所が1階だったのでベビーカー等も持参しやすかったのはよかったです、入り口がわかりにくかった。 ・チャイルドルームの案内をプログラムに掲載していただけたことは有り難かったです。さらに地元の方に無料で利用できることを、実行委員会と協力して事前に周知していった方がよい。 ・利用時間は8時30分からにしたこと、利用者に大変好評だった。
チャイルドルーム (愛媛団体)	平成29年 9月30日(土)～ 10月5日(日)	愛媛県新居浜市 新居浜マリーナ クラブハウス応接室	・愛顔つなぐえひめ団体セーリング競技に於いてチャイルドルームを設置。延べ利用者数61名 傷害保険に加入。 ・レディース委員会委員4名(うち2名保育士免許有)、愛媛県サポートー2名(保育士免許有)、高校生ボランティア2名で実施。 ・選手と運営・観戦者の子どもの利用があった。週末は利用者が特に多く、満員で利用できない方がいた。 ・地元女子高校生のボランティアがよいサポートをしてくれ、大変助かった。 ・今年度も多数の方々が視察に来られたので、今後も情報交換を密にしていく。
チャイルドルーム (蒲郡ワールド)	平成29年 10月15日(日)～ 22日(日)	愛知県蒲郡市 豊田自動織機 海陽ヨットハーバー談話室	・セーリングワールドカップ蒲郡でチャイルドルームを設置。傷害保険に加入。 ・延べ24人が利用した。選手と観戦者の子どもの利用であった。レディース委員4名(内2名保育士免許有)で実施。 レースに臨むことができた。ハーバーの入口にチャイルドルームの場所を確保していただいたので、一般の方にも注目してもらえた。 ・ワールドカップ実行委員会に、委員派遣の費用を負担していただいたことにより実施できた。
チャイルドルーム (江の島オリンピックワールド)	平成29年 10月26日(木)～ 29日(日)	神奈川県 藤沢市 江の島ヨットハーバー	・江の島オリンピックワールドでチャイルドルームを設置。傷害保険に加入。 ・延べ15人が利用した。選手と運営スタッフ・観戦者の子どもの利用であった。 ・主催は江の島オリンピックワールド実行委員会、協力がレディース委員会の形で実現した。
JSAF新年会実行委員会	12月15日(金) 1月16日(火)	JSAF事務局	・事前に実行委員会を2回開催した。広報委員会・認務委員会・事業開発委員会・事務局との仕事分担を明確にしていく。 ・次年度は招待者の人数をさらに増える予想されるので、第1回の実行委員会を11月中に開催するとよい。
平成28年度 JOC総務委員会フォーラム	平成30年 3月7日(水)	東京都 味の素ナショナル トレーニングセンター 大研修室	・中川副会長・三浦・高田の3名で参加。 ・JOC平岡副会長より、IOCは3割の女性役員を登用しているので、JOCはまずは10%、さらには30%を目指しているとの ・パネルディスカッションには、JOCでの理事の山口香氏・高橋尚子氏・クレー協会理事夏樹陽子氏・エンシング協会会長太田雄貴氏・トライアスロン協会理事和田知子氏が出席。今後の強化育成の基盤作りや女性役員の登用、女性の地位向上に ・研修内容が充実しているので、次年度は早くより委員会に呼びかけ、多数で参加していきたい。
<備考:反省点等>			

◆障がい者セーリング推進委員会

(委員長: 鈴木修 副:高間信行)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.パラリンピックにおけるセーリング競技の復活	通年		2024パラリンピックでのセーリング競技の復活に繋げるために以下の活動を行なった。 (1)2017セーリングワールドカップ(愛知)でのPARA種目の成功を目指す。 障がい者種目(2.4mR)へのエントリー数が足らずキャンセルされた。日本での同艇の保有台数が3艇程度のため2018セーリングワールドカップ(江の島)へ向け保有艇数を増やすなどの対応が必要である。 (2)2017年バラワールドチャレンジンシップへJSAFのバックアップのものと選手派遣ができた。JSAF理事会・加盟・特別加盟団体の協力のもと派遣費用の寄付活動を行い、参加選手に費用負担をかけることなく参加させることができた。WSへのNFとしてのアピールもできたが短期間でのPSJAとの調整は取れなかった。次年度以降は国内窓口を一つのできるよう対応を進める。 (3)2018年ハンザクラス・ワールド選手権(広島)へ向け連携して準備を進める事ができた。 (4)2020年バラワールドチャレンジンシップ日本開催を実現するために開催候補地の募集を行ない3候補地が手を上げ委員会で精査を行なった上で決定する。
2.障がい者セーリングの普及・強化推進	通年		障がい者セーリングの普及と推進のために以下の事を行った。 (1)障がい者セーリングを普及・強化推進候補地の募集を行い、5候補地(東京、和歌山、大阪、広島、大分)が名乗りを上げ委員会で今までの活動、設備、将来展望などについて精査を行なっている。 (2)JSAF-HPIに障害者セーリングに関する事の情報提供ページを作成し、障害者セーリングへの理解を高めるために加盟・特別加盟団体・委員会・会員、外部への広報活動を行なってきた。情報収集能力の不足が有り対応に送られている。 (3)障がい者セーリングの発展振興、安全のため、障がい者セーリング行事運営についてCPSAと連携しJSAF加盟・特別加盟団体に向け研修を行う事ができ、委員会内に相当を置き体制を構築する必要がある。 (4)全国障がい者スポーツ大会にセーリング競技の採用を実現するため東京都障害者スポーツ大会にセーリング競技を実現するよう働きかける。東京都へ公開競技として開催を依頼している。東京都での設備を整えるのも課題の一つである。その一環として、視覚障がい者も参加した2017障がい者セーリングチャレンジ東京の共同主催、第13回全日本プライドセーリング選手権に参加を行なった。
<備考:反省点等>			

・対応しなければならない事項が多すぎ定期的委員会活動だけでは処理が難しい、委員会内に専門に対応するWG(グループ)を作り委員会の運営方法を変えていく必要がある。
・委員会活動を行う上での運営資金が無く財政基盤を作っていく必要がある(障がい者セーリングを支援する団体の開拓、活動内容にそぐわない見本の作成)。
・既存の障がい者セーリングを応援してきた団体との連携をより進めて行かなければならぬ。

◆ルール委員会

(委員長: 増田開 副: 大村雅一、前原昇)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.ルール関連資料の邦訳・発行	12月 12月 3月	— — —	・マッチレースおよびチームレースにおける競技規則のWorld Sailing公式解説であるコールブックの2017-2020版を日本語訳、副本し、販売開始した。 ・World Sailingによる競技規則2017-2020の2018/1/1付け緊急改定を日本語訳し、HPで公開した。 ・フリートレースにおける競技規則のWorld Sailing公式解説であるコールブックの2017-2020版を日本語訳し、製本版と電子版の販売を開始した。
2.ジャッジ・アンバサドア関連書の邦訳・発行	7月、7月、10月、 10月、1月	愛知、ハンガリー、愛知、 神奈川、米国	・2017-2020版のジャッジ・マニュアルおよびアンバサドア・マニュアルの日本語訳書の発行は、World Sailingからの発行が遅れたために、年度内に実施できなかった。 ・海外大会と国内で開催された国際大会へ国際ジャッジ(IJ)候補者(5大会、延べ7名)を派遣し、IJ認定に必要な実績・経験の修得を支援した。 ・国際ジャッジ(IJ)申請希望者1名の審査を行い、World Sailingに推薦した。残念ながら、IJ資格は認定されなかった。認定されなかった理由についての情報収集や、認定に必要な海外大会等への参加機会獲得などの支援を引き続いだ。 ・3回のA級ジャッジ(NJ-A)認定講習・試験を実施し、合計14名の受験者がおり、うち8名を新たにNJ-Aに認定した。年度末時点ではNJ-Aは256名となつた。
3. IJ/IUの育成	7月	東京	・2回のアンバサドア(NU)認定講習・試験を実施し、合計3名の受験者のうち2名が合格した。来年度実施する海上実技試験に合格すればNUに認定される。年度末時点ではNUは23名。
4. ジャッジ・アンバサドア講習会の開催	4月、5月、1月 9月、12月	神奈川、京都、茨城 広島、神奈川	

	1月~3月	熊本、東京、兵庫、北海道	・A級ジャッジクリニックを全国各地4カ所で合計61名の受講者を得て開催、ジャッジのスキルアップに貢献した。開催地の希望を受けて新年度4月にも追加で2回(愛知と福岡)の開催を予定している。
5. B級ジャッジ認定のための付帯業務	都度	-	・認定講習・試験を実施した各加盟団体・特別加盟団体から送付された実施報告に基づき認定業務および認定証発行作業を実施した。年度末時点でB級ジャッジは816名となつた。
6. JSAF主催大会等へのジャッジ・アンハイア派遣	9月、9月	福井、愛媛	・国体リハーサル大会、国体にジャッジを派遣、開催地のジャッジとの交流を通じ全国のジャッジレベルの向上にも貢献した。
7. 選手・指導者向けルール講習会の開催	1月~3月	全国各地	・全国各地で17回開催、合計809名の受講者を得て、スポーツマシンシップやルール理解の普及に貢献した。
8. チームレースの普及	-	-	・対象をマッチレースやダブルレースにも拡大して、新たにアンハイア制レースの開催を計画する主催者を対象に、チーフアンハイアとのその旅費補助を希望する主催団体を募った。その結果、残念ながら年度内ではなかったが、次年度に新規マッチレース大会を計画する主催者から希望があった。
9. 電子版ルールブック発行とルールブック	都度	-	・講習会などの機会も活用するなどして、ルールブック(製本版)約400冊を追加販売した。
<備考:反省点等>	1月	-	・当初計画通り電子版ルールブックを編集・発行し、1月末に販売開始した。年度内に55本を販売した。

<事業9の電子版ルールブック発行と関連して、從来の製本だけの販売形態では収支や在庫リスクの観点から難しかった、ウインドサーフィン版ルールブック(電子版のみ)の発行を予定している。電子版の取扱を始めたことは、今後、JSAF会員へのサービス向上とルールの普及の両面に貢献すると期待している。

<事業10におけるJUW候補者への国際大会参加機会の提供に關連しては、機会提供の公平性・透明性をより向上させるため、大会への派遣するJU候補者の選考を公募する仕組みを構築し、選考基準・選考過程を公開した。

<事業6においておいて従来行ってきた代表候補舎宿等への講師派遣について、オリンピック強化委員会と協議した結果、担当するルール委員をオリンピック強化委員との兼務とし、今後益々両委員会の連携を強化できる体制を構築した。

◆ レース委員会 (委員長: 大庭秀夫、副委員長: 岡田彰、岡村勝美、三浦信郎)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. レースマネジメントクリニック	4月 1回、2月 1回	愛知・北海道	14名参加
2. NRO セミナー	2月 1回	東京	17名参加
3. ARO/CRO セミナー	4月 2回	沖縄・京都	40名参加
"	6月 1回、7月 1回	佐賀・石川	22名参加
"	11月 1回、1月 1回	三重・鹿児島	18名参加
"	2月 2回、3月 2回	北海道・宮崎・和歌山・東京	62名参加
4. NRO更新講習会	4月 1回	愛知	2名参加
5. ARO/CRO 更新講習会	6月 1回	茨城	9名参加
6. レース委員会全国会議開催	12月、3月	東京	全国のレース委員を対象に全国会議を年2回開催
7. 外洋合同委員会	2月	福島	全国外洋の合同委員を対象に全国会議を年1回開催
8. 全国団体長会議	9月、1月	東京	全国水域代表者が集まりルールや問題題点の情報交換を行う
9. JSAF共同主催・公認・後援審査 JU候補者選考会・JRC候補者選考会	4月~3月 9月、10月	広島 愛媛・福井	年間通して申請書類のチェックを行う 愛媛団体・福井プレ団体への委員の派遣 Sailing Worldcup蒲郡大会への委員の派遣 470 Junior World Cupの島大会への委員の派遣 ASA江の島オリンピックワーカーへの委員の派遣
11. 各国際大会へのレース委員の派遣	8月、10月	愛知・神奈川	ASA江の島オリンピックワーカーへの委員の派遣

<備考:反省点等>

2020東京に向け運営スタッフのスキルアップのため、WSLレースマネジメントクリニックを計画したが、日程調整がつかず翌年度の開催となった。

次年度は国際レースも多く開催される予定で、各委員の意識づくりとレベルアップを図りたい。

外洋においては、各水域の新規ルールに対する意識や体制づくりが必要である。

◆ ワンデザインクラス計測委員会

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
公式計測員セミナー、およびクリニック	通常	全国28箇所	別紙「2017 計測セミナー実施報告書」の通り
会議等々			別紙「2017 計測セミナー実施報告書 水域別」の通り
臨時ODC計測委員会会議	平成29年5月27日(土)	神奈川県横浜市内	委員長・副委員長・事務局 計6名
臨時ODC計測委員会会議	平成29年12月1日(土)	東京都渋谷区内	委員長・副委員長・事務局 計6名
ODC計測委員会定期会議	平成30年3月3日(土)	豊田自動織機 海陽ヨットハーバー	別紙「第13回会議スケジュール議題」の通り
JSAF加盟クラス協会計測代表者 連絡	平成30年3月4日(日)	豊田自動織機 海陽ヨットハーバー	別紙「JSAF加盟クラス協会計測代表者 連絡会議2018のご案内」の通り

<備考:反省点等>

備考、ERS更新・新規認定講習会の実施

1)ERS更新講習会を一部クラス計測員更新認定講習会と併催し、クラス別競技団体への委託事業も含め全国26か所で実施した。

2)外洋系ワンデザイン・クラスの計測員講習会を行い、全日本選手権大会における大会計測体制を整備した。

反省、今後の課題(2020年 東京オリンピックの準備)

1)計測部準備状況を含め情報収集のために、2018年 Sailing World Cup (SWC)への役員および観察員派遣を進める。

2)艇種としてワンメイク船に移行する傾向がみられ、日本に導入されていない艇種もあり、2018年 SWC の情報を収集する。

◆ 普及・指導委員会

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1)次世代指導者の養成	-	-	指導者育成を通じて加盟団体の組織活性化の貢献を目的に実施し、JSAF全体会の指導者の高齢化による資格保有者減少に歯止めをかけることができた。次年度に向けては、H31年度から日体協の指導者育成体系の大枠改定に伴い、H30年度に策定するJSAF指導者育成体系を基に専門科目の改定を次年度中に行う必要がある。また、現時点で実現できていない海上訓練を前段階とした講習会場の選定や、他委員会指導者の支援による講師の確保も必要。
・公認コーチ養成講習会の募集と実施	前期: 11月10~12日 後期: 01月06~08日	前期: 東京夢の島マリーナ 後期: 仙台TKP勾当台センター	ジュニアユースの指導者を中心に、15都道府県(青森・岩手・宮城・茨城・東京・神奈川・山梨・長野・静岡・愛知・滋賀・大阪・岡山・鳥取・高知)から合計27名の参加(過去最高)にて講習を実施。アンケートでも、5点満点中理解度平均4.7、活用度平均4.6の評価を得た。来年度は、H31年度から実施される日体協指導者養成制度に対応できるように、新カリキュラムを構築する。
・上級コーチ養成講習会の募集と実施	02月02~04日	名古屋 TKPカンファレンスセンター	ジュニアユースの指導者を中心に、9都道府県(茨城・栃木・東京・神奈川・愛知・福井・滋賀・大阪・徳島)から合計18名の参加(過去最高)にて講習を実施。アンケートでも、理解度平均4.6、活用度平均4.5の評価を得た。来年度は、H31年度から実施される日体協指導者養成制度に対応できるように、新カリキュラムを構築する。
・公認指導員養成講習会の実施支援	静岡県連: 12月2~3/16~17日 長崎県連: 11月25~26/12月9~10日	浜松市: アクトシティ浜松 長崎市: 長崎県立総合体育館	静岡県連が開催する指導者養成講習会のカリキュラム策定、講師選定アドバイス、講師派遣を行い、静岡県で12名、長崎県で8名の新規指導員の養成を実現。来年度は、H31年度から実施される日体協指導者養成制度に対応できるように、新カリキュラムを構築し、指導者講師研修会にて、加盟団体が実施できるよう教材を準備する。
2)公認指導者レベルアップ	-	-	当初はH28年度と同様の「ジュニアユースの標準的指導法の浸透に向けたメニューの展開」により、加盟団体の指導者のレベルアップを計画したが、指導者育成体系の検討を優先した。指導者レベルアップに向けた育成体系の骨子は下記検討会の実施により、概ね完成した。来年度は、各都道府県連に地元で開催できる講習会カリキュラムを策定し、指導者講師連携にて供給するために、教員展開を実施する。
・指導者講師全国研修会	02月10~11日	東京夢の島マリーナ	オリビック強化委員会、アスリート委員会、ジュニアアカデミー委員会、指導者育成委員会、全国高体連ヨット専門部、日本オフィスティミストディキンギー協会の代表を1会場にし、JSAF指導者のあるべき姿、必要なコンビニシティ、普及指導委員会から提出したJSAF指導者育成体系案を参考に方向性の合意を得た。また、2018年12月のJSAF理事会までに審議事日体協の指導者管理システムからダウロードした指導者データを使用して、更新時期と義務研修受講状況を確認した。今年度は、レース/ルール/ODC計測各委員会にて開催する義務研修の登録不具合を解消すべく、各委員会による直接登録に仕組みを変更し、義務研修についての認知向上と、受講促進を行った。各委員会としての認知および仕組化登録までに約1年は要したもの、ほぼ登録漏れなく順調に推移し始めた。来年度は、JSAFメンバー管理システムへの情報登録を検討し、加賀開催側での管理を簡易化する(入力アルバイトが不要)。
・指導者リストの整備	3月 4月~3月	日体協指導者管理システム 各委員会 (ルース/ルール/ODC計測)	指導者リストの整備に向けた日体協指導者登録システムから仕組み化されたデータを用いて、更新時期と義務研修受講状況を確認する。今年度は、レース/ルール/ODC計測各委員会にて開催する義務研修の登録不具合を解消すべく、各委員会による直接登録に仕組みを変更し、義務研修についての認知向上と、受講促進を行った。各委員会としての認知および仕組化登録までに約1年は要したもの、ほぼ登録漏れなく順調に推移し始めた。来年度は、JSAFメンバー管理システムへの情報登録を検討し、加賀開催側での管理を簡易化する(入力アルバイトが不要)。
・義務研修の受講促進	国体開催時 3月	H30年3月/H30年9月/H31年3月 更新者 & 義務研修未受講者	国体開催時に国体監督管への情報提示、3月度によってはH30年3月更新、H30年9月更新、H31年3月更新対象者から、義務研修未受講者を抽出してメールにて個別に連絡した。結果として情報提供タイミングが遅く、一部に更新出来ない指導者が出ていた。来年度は、アナウンス時間の前倒しが必要。
3) セイラー育成システムの標準化	-	-	加賀開催のセイラーキャンプ同上に日体協セイラー指導者の多い指導者でも一年の上達を目指せるように育成システムを標準化して仕組み化されなければならない。現在は、各委員会で運営するセイラーキャンプ同様に、セイラーキャンプの運営者と競艇団体の指導者との連携を図ることで、セイラーキャンプの運営が円滑化される。
・育成に必要な項目を標準化したガイドラインの作成と展開	11月/2月	公認コーチ/上級コーチ 専門科目講習会にて展開	今年度は、セイラーキャンプの教材として翻訳したJSAFの「セイラーキャンプの基礎」と競艇団体のセイラーキャンプの運営についての標準化を実現した。来年度は、セイラーキャンプの運営が円滑化される。
・ジュニアユース育成指導者が活用できる教材の作成と展開	-	-	数冊の海外セーリング教本について、協力者が翻訳依頼を行っているが、まだ完成に至っていない。次年度はメンバーアーを増員して、作成展開予定。
・全国のセーリングスクールの調査	-	-	未実施。次年度は、JSAF指導者育成体系に基づいた認定基準を策定予定。
4) 国際人材育成制度(仮称)に基づく、人材発掘と育成	-	-	加盟団体やJSAFの人材を、国際連盟および他国連盟へ派遣し、指導者や、スタッフ、運営、ジャッジなどノウハウを身につけるチャンスを提供する。
・スポーツ庁IT事務局養成派遣への推進	-	-	昨年度1月に全国の加盟団体に募集をかけたが、応募がなく、スポーツ庁への申請を行わなかった。また、次年度に向けての募集も行ったが、今年度も応募がなかった。次年度には、JSAF指導者育成体系の中に、キャリア育成項目を設け、段階的に過去、JSAFから1名も応募しなかった「JOC国際人材養成アカデミー」を当委員会で担当することになった。今年度初めて、来年度の派遣について、加盟団体及びJSAF各委員会に募集をかけ、1名の応募者を得た。JOCの受講者は決定は来年度5月にならるが、継続して候補者の支援を行っていく。また、上記スポーツ庁養成事業と連動させ、JSAFキャリア育成を行っていく。
・JOC国際人材養成アカデミーへの推進	1月~3月	JISS	海外や他競技団体のコーチングノウハウを収集し、各加盟団体の指導者資格保有者に展開する。
5) 国内外コーチング情報の収集と展開	-	-	今年度はオリンピック強化委員会の主幹を行われていたので、未実施。
・JOCコーチングアカデミーへの人材派遣	-	-	H31年度には、日本協指揮者養成制度との連動が調整されており、次年度からは、普及・指導委員会担当とするように、オリビック強化委員会と連携する。
・World Sailing デベロップメント会議への参加	-	-	国際標準の指導者成績情報、及びノウハウの収集と展開を目的に毎年1月から2月に開催されており、2年連続参加していたが、今年の開催が次年度の4月に南米にて開催されることになった。当初予定していたメンバーアーとの都合が合わなくななり、参加を見送った。次年度は、改めてメンバーアーを参加させる予定。
6) World Sailing/ASAFでのJSAF地位向	-	-	JSAFがWorld Sailing/ASAFや、その加盟団体との関係で、国際的プレゼンツへの活動するよう、活動する。
・国際委員会が展開するSFT事業への支援	12月	フィジー	今年度のSFT事業は、JSAFからフィジーにコートを派遣してセーリングスポーツ発展に貢献する活動であったので、上級コーチ資格者の中央から派遣コートの推薦を行い、事業の成功に貢献した。次年度も、国際開催、または海外派遣について現在、国体競技の参加要件として活用されている安全資格を、現場でセーリングの普及と安全のために活用できるように改定を行うことで、加盟団体の活性化に貢献する。
7) パッシングシステム再構築	-	-	

・バッジテスト検定制度改定案の策定	-	-	・ユース世代が楽しんでチャレンジできる仕組みの検討の予定だったが、未実施。次年度は、JSAF指導者育成体系に基づいた改定案を策定予定。
8) 安全確保キャンペーン	-	-	・加盟団体、特別加盟団体に対して、安全に関する意識向上を再展開する予定であったが、殆ど実施できていない。次年度は、JSAF指導者育成体系に基づいた改定案を策定予定。
・ライフジャケット/キルコードの使用徹底	-	-	指導者等が乗るラバーボートのキルコードの正しい使用方法については、公認コーチ、上級コーチ講習会にて展開した。また、コーチ各自で保有による希望者にキルコードを配布した。
・練習環境の安全徹底	-	-	練習池面の安全基準チエックリストの展開を公認コーチ、上級コーチ講習会にて展開した。
・強風域に対する大会参加資格基準	-	-	バッジテストの中級/上級資格による層別を検討する予定だったが、未実施。
9) 加盟団体・特別加盟団体の普及支援	北海道/青森/千葉/東京/神奈川/大阪と歌山/鳥取/山口/香川/愛媛/福岡	北海道/青森/千葉/東京/神奈川/大阪と歌山/鳥取/山口/香川/愛媛/福岡	加盟団体・特別加盟団体の普及活動を支援することで、セーリングを始めたり、応援する人口を増加させる。 日墳海上親しみの少ない子供達を対象に、全国から日本財団「海と日本プロジェクト」のイベント参加募集を行い、13カ所から応募を受けた。日本財団からの助成により、事業開発委員会、広報委員会、環境委員会、経営委員会、JSAF事務局と協議で、Web展開、統一横断幕、ポスター/チラシ、記念品などを提供する支援を行い、子供を中心に全国で6500名の参加の参加を得た。次年度も継続して募集し、12ヶ所から応募を受け、月末に採択の会を内示予定。
10) 加盟団体・特別加盟団体参加の指導者への情報展開強化	3月~	-	加盟団体、特別加盟団体参加のメンバーが求める情報や、資格情報などをタイムリーに提供できる環境を構築する。
・委員会ページの改定	-	-	今年度、委員会ページが全く活用できずに終わって、遅ればはしたが、3月に、広報委員会と調整を行い、大幅に改定するページを提示できた。次年度から、活用者を中心のページに改定し、情報展開体制を構築する予定。
11) JSAF実施事業の質的向上と委員会/ウハウ交流	都度	4件の協業事業	加盟団体、特別加盟団体参加のメンバーが求める情報や、資格情報などをタイムリーに提供できる環境を構築する。 今年度は、「SFT」「海と日本プロジェクト」に加え、「ボートショウ」「JSAF指導者育成体系案策定」を委員会横断で実施。来年度以降、さらに委員会同士の協業を拡大して、加盟団体への貢献を推進する。

<備考:反省点等>

実施できた事業については、対象者からの評価も高く、加盟団体への貢献ができていると感じている。しかしながら、複数の計画した事業計画が委員会リソース不足で実施できなかったことは、計画立案時の工数見積もりが甘かったことである。まだ十分ではないが、次年度に向けて、メンバーの增强を図っているので、更なるチャレンジを行い、加盟団体への貢献を高めていきたい。

◆国際委員会

(委員長: 戸張房子 副: 岩瀬克己、小林昇)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1. 国際会議への代表者・委員の派遣 ① WSミッドイヤーミーティング	5月6日~9日	シンガポール	出席者 大谷たかを、入部透 ① 2020オリンピックの種目別出場割り当て数が決定(男女比50:50を基本) ② パラリンピックへセーリング復活を目指す活動が順調であることが報告された ③ 2020TOKYOの準備状況を報告
② WS年次総会、ORC年次総会	11月3日~11日	ブルータンバジャルタ(マニコ)	出席者 小林昇、柴沼亮介、増田開、入部透、須藤正和、齊藤愛子、鈴木一行 ① 2020オリンピックフォーマット決定(ほぼ2016と同じ) ② 艇のアンチ・モノポリーについての討議は延期されたが今後の大きな問題となる。 ③ WSのロンドン移転に伴いスタッフが大きく入れ替わり混乱が大きい。 ④ 国連発表のSustainability 2030が今後の活動の軸になる。(JSAF環境委員会が担当) ⑤ ORCとIRCが合同の世界選手権を開催することが決定。
③ ASAF年次総会	7月11日	バタヤ(タイ)	出席者 荒川博人 ① 2018アジア大会の種目決定 ② ECIにニール・ライトがアドバイザーとしている。WS グループI、J(大谷たかを), K のカウンシルも入る。 ③ 2020までのASAFイベントスケジュールを配布・説明。 ④ アジアでのレースオフィシャルズの普及を促進するためアジア独自の認定を目指す。
2. SPORT FOR TOMORROW	11月25日~12月3日	フィジー	フィジーへのコーチ派遣事業を実施。現地新聞にも記事が掲載された。 大谷たかを、李東潤、渡邊哲雄、佐藤麻衣子の4名でOPとレーザーのコーチングを実施。
3. その他			① 2020に向けて海外からの問い合わせや訪問のそのサポート ② WSC,EOW、470ジュニアワールドなど国際レース開催のサポート ③ レースオフィシャルズ育成のサポート ④ 2024オリンピック種目選定に関しての情報収集とロビингの開始

<備考:反省点等>

* 普及指導委員会との協力体制を強化し、情報共有化が進み、活動範囲が広くなった。SFT事業実施には特に有効であった。

◆医事・科学委員会

(委員長: 山川雅之)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
①選手の健康管理、外傷予防に関する事項	H29年12月17日	静岡県浜松市	公認セーリング指導員養成講習会 「セーリングのための科学トレーニング」(江口) 「選手のコンディショニング」(江口)
	H30年1月7日	宮城県仙台市	公認コーチ養成講習会専門科目講習 「科学的トレーニングとコンディショニング」(江口) 「選手の怪我の予防と病気の対応法」(山川) 「栄養管理・指導」(武田)
②アンチドーピングに関する事項 i)ドーピング検査に関する事項	H29年8月14日 8月22日 8月23日 10月29日 11月19日	愛知県海陽ヨットハーバー 鳥取県境港マリーナ 神奈川県江の島ヨットハーバー 神奈川県江の島ヨットハーバー 神奈川県葉山港	全日本学生ヨット個人選手権大会(M:4, F:2) 全日本420級選手権大会(M:4, F:2) 全日本470級選手権大会(M:4, F:2) オリンピックウェーク2017(M:4, F:4) 全日本スナイプ級選手権大会(M:4, F:2) 愛媛県国セーリング監督会議 「事例から学ぶアンチドーピング」(中村)
ii)アンチドーピングの指導・啓蒙	H29年9月30日	愛媛県新居浜ハーバー	全日本470級選手権大会 オリンピックウェーク2017 全日本スナイプ級選手権大会 関東学生ヨット選手権春季大会(山川、栗原)
iii)シャベル業務、スポーツファーマシスト確保(金田)	H29年8月23日 10月29日 11月19日	神奈川県江の島ヨットハーバー 神奈川県江の島ヨットハーバー 神奈川県葉山港	全日本470級選手権大会 オリンピックウェーク2017 全日本スナイプ級選手権大会 関東学生ヨット選手権春季大会(山川、栗原)
③競技会における救護に関する事項	平成29年4月29日 ~5月14日 9月10日 9月15日~17日 9月9日~10月9日 2018/3/23~25日	東京都若洲ヨット訓練所 神奈川県葉山港 神奈川県葉山港 静岡県浜名湖	国際競善ミキハウスカップ(山川、橋本、川副) 全日本女子学生ヨット選手権大会・レンタコムカップ(山川、栗原) ・関東学生ヨット選手権春季大会(山川、栗原) ・YMFSセーリングチャレンジカップ(高橋) ①に記載 薬剤の調達、メール、電話による相談(山川) スポーツドクター: 取得1名 ・養成講習会応用科目: 総統3名、新規2名 ・養成講習会基本科目: 新規1名 スポーツデンティスト、スポーツファーマシスト、スポーツ栄養士: 希望者なし アスレティックトレーナー: 該当なし i) 普及と委員会 ①公認コーチ養成講習会、公認セーリング指導員養成講習会へ講師の派遣 ②日本体育協会公認資格養成講習会への推進 ii) 国体委員会 ①アドバイザーとして委員会に参加(山川) ②国体においてアンチドーピング講習及び啓蒙(中村) iii) オリンピック強化委員会 ①INT、海外遠征選手からの相談対応
④安全の講習及び公認コーチ講習にかかる事項			
⑤海外派遣選手に対する事項			
⑥日本体育協会公認資格に関する事項			
⑦トレーニングに関する事項			
⑧他の委員会との連携			

<備考:反省点等>

◆国体委員会		(委員長: 末木創造 副: 森信和)		
事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)	
1.第72回国民体育大会愛媛国体の開催	10月1日～4日	愛媛県新居浜市 新居浜マリーナ	・参加 579名、354艇 天皇杯: 愛媛県 皇后杯: 愛媛県 ・イベント事業の開催: 見えるセーリング競技の実施(LIVE放送) ・スマホ、パソコンでセーリング競技中継を見ることができセーリングを身近に感じた。 ・チャイルドルームの設置 ・環境エコ事業(エコパック作り方教室)	
2.福井国体ブレ大会の開催	9月8日～10日	福井県高浜町 若狭和田マリーナ特設会場	第63回全日本実業団ヨット選手権大会 第19回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会 2017年全日本セーリング選手権大会 420級、ウンドサーフィン、 レーザー級、レーザーラジアル級	
3.第78回佐賀国体(平成35年) 開催地内定に係る中央競技団体正規視察	11月26日～27日	佐賀県唐津市 佐賀県ヨットハーバー	・佐賀県国民体育大会準備室、唐津市スポーツ振興課、佐賀県ヨット連盟 ・施設が老朽化しているため再構築を検討する必要がある。	
4.国体セーリング競技研修会の開催	1月12日～13日	東京都夢の島マリーナ会議室	・JSAF国体委員会主催により愛媛県、福井県、茨城県、鹿児島県、三重県の行政関係者及び都道府県競技団体から国体開催の報告、準備状況についての研修会を実施 ・第72回国体セーリング競技の監督、選手の参加資格について審査を実施 ・年度登録証の発行及び管理 ・国体名・県番号の販売、収益分をJSFAへ納付	
5.国体参加資格審査 6.国体ウンドサーフィン級年度登録 7.国体名・県番号の斡旋販売 8.国体委員会会議	6月18日 10月1日	(定期)夢の島会議室 (臨時)愛媛国体会場	・愛媛国体、福井国体ブレ大会準備状況等 ・福井国体実施要項	

<備考: 反省点等>

- ・国体セーリング競技研修会の開催は関係行政機関及び都道府県連との意見交換で成果が多く有意義な会議であり、毎年継続して開催する。
- ・中学生年生の参加については更に積極的に進め、2020年東京オリンピックを視野に入れたユースの競技力向上を図る。
- ・国体参加資格について各都道府県に周知徹底を図り、また「ふるさと制度」の活用を広め、参加者の増員を図る。
- ・セーリング競技を一般市民の方々に身近に感じてもらうためにTV報道等で解説を行い「見えるセーリング・スポーツ」として継続して実施する。
- ・国体会場において、環境委員によるエコパック教室、更には海をきれいにする活動を行う。
- ・国体会場でのレディス委員によるチャイルドルームを更に広め成年女子の参加を促していく。

◆オンラインピック強化委員会

(委員長: 斎藤 渉)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
海外派遣・遠征・国内ワールド等	3~4月 4月 5月 6月 6月 7月 8月 8月 8~9月 9月 10月 10月 10月 1月	スペイン フランス オランダ スペイン イタリア ギリシア オランダ オランダ 江の島 江の島 蒲郡 江の島 アメリカ	【主な大会と主な成績】 ブリュンセスヨーフィア大会(3/27～4/1、スペイン・バルマ) 【470男子】1位 磯崎哲也・高柳樹 ワールドカップ・イエール大会(4/23～30、フランス・イエール) 【470男子】15位 高山大智・今村公彦 7位 磯崎哲也・高柳樹 【49er FX 女子】10位 渡多江慶・板倉広佳 【レーザー・ラジアル級】10位 土居 愛実 デルタロードレガッタ(5/23～5/27、オランダ・メデンブリック) 【レーザー・ラジアル級】1位 土居 愛実 WCJファイナル・サンタンドール大会(6/4-11、スペイン・サンタンドール) 【470男子】5位 市野直毅・長谷川幸 【49er FX 女子】9位 渡多江慶・板倉広佳 (【レーザー・ラジアル級】7位 土居 愛実) RS:Xユース世界選手権(6/24～7/1、イタリア・トルボレ) 【女子】3位 松浦花咲実 10位 新鍋莉奈 470級世界選手権(7/7～7/15、ギリシア・テッサロニキ) 【男子】11位 土居一斗・木村直矢 レーザーラジアルユース世界選手権(8/11～8/18 オランダ・メデンブリック) 【男子】6位 鈴木義弘 レーザーラジアル級世界選手権(8/19～8/26 オランダ・メデンブリック) 【女子】3位 土居 愛実 (女子)3位 土居 愛実 470級ジュニア世界選手権(8/26～9/2、江の島) 【男子】13位 高山大智・木村直矢 6位 岡田薫樹・松尾虎太郎 【女子】11位 宇田川真乃・関友里恵 12位 田中美紗樹・工藤綾乃 RS:X級世界選手権(9/16～9/23、江の島) 【男子】17位 富澤慎一 【女子】26位 小森恵美 セーリングワールドカップ蒲郡大会(10/15～10/22、蒲郡) 【470級女子】2位 吉田愛・吉岡美帆 【470級男子】2位 高山大智・今村公彦 【RS:X級女子】3位 伊勢田愛 【RS:X級男子】3位 富澤慎一 【49erFX級女子】7位 山崎アンナ・高野芹奈 (【レーザー・ラジアル級】4位 土居愛実 セーリングワールドカップアミ大会(1/21～28 アメリカ・マイアミ) 【470級女子】13位 吉田愛・吉岡美帆 【470級男子】9位 磯崎哲也・高柳樹 【レーザー・ラジアル級】15位 土居愛実 【RS:X級女子】8位 須長由季 【49erFX級女子】7位 渡多江慶・板倉広佳 tota助成事業: 水域12回、次世代24回、海外遠征21回、3チ派遺15回、合計72事業 JOC補助事業: 国内合宿9回、海外優秀コーチ招聘3回 全国各地で15回実施し、次世代選手の育成も含めてよい成果が得られた。 5大会において32種類について検査した。 470ジュニアワールド・RSXワールド、テーザーワールド、SWC蒲郡大会、江の島オリビックワールドを実施した。
国内合宿			
ジュニアユースアカデミー アンチドーピング 競技会開催			

<備考: 反省点等>

東京2020に向けて、国際大会における成績はまことに立上がりであった。反省点も多く、さらなる飛躍が求められる。

ユース世代の海外派遣も多く行った結果、一部では好成績もあったが、全体としては世界レベルから見劣りしているので、今後の強化が重要である。

日本における国際大会開催が増える傾向であり、十分な対応をしていく必要がある。

◆ジュニアアカデミー委員会

(委員長: 中村公俊 副: 青山義弘)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー事業 を以下のとおり全15回実施した。	以下のとおり	以下のとおり	■評価点 ・予定期回を全日程を事故なく無事に終了することができた。 ・沖縄から北海道まで全国規模で事業を展開することができた。 ・述べ677人にのぼる参加者を得ることができた。
第1回蒲郡アカデミー	4月22~23日	愛知県蒲郡市	・各クラブや水域の情報を得ることができた。 ・各クラブや水域の指導者や役員とのパイプができる。
第2回葉山アカデミー	6月24~25日	神奈川県葉山町	・シーマンシップの啓発に成果を感じることができた。
第3回稻毛アカデミー	7月15~16日	千葉県稻毛市	・アカデミー講師のスキルアップが進んでいる。
第4回室蘭アカデミー	7月29~30日	北海道室蘭市	・9年目を迎えるが、未実施県連、水域が存在する。 ・事業内容がマンネリ化している。
第5回糸満アカデミー	9月16~17日	沖縄県糸満市	・アカデミー講師のスキルアップを主導しきれていない。
第6回石垣アカデミー	9月23~24日	沖縄県石垣市	■反省点 ・年度初めの告知をウェブなどをとおして効果的に発信する。
第7回青森アカデミー	10月7~8日	青森県青森市	・委員会主導の企画を年2回程度打ち、事業目的、講師間の情報共有を効果的に推進する。
第8回高松アカデミー	10月28~29日	香川県高松市	
第9回光アカデミー	10月28~29日	山口県光市	
第10回日南アカデミー	12月23~24日	宮崎県日南市	
第11回別府アカデミー	1月5~6日	大分県別府市	
第12回光アカデミー	1月27~28日	山口県光市	
第13回福岡アカデミー	2月10~11日	福岡県福岡市	
第14回津アカデミー	2月17~18日	三重県津市	
第15回光アカデミー	3月10~11日	山口県光市	

<備考:反省点等>

◆キールボート強化委員会

(委員長: 中澤信夫 副委員長: 久保田悟、金子純代、石黒建太郎)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1 海外キールボートレガッタへの日本チーム出場支援 ・JSAFホームページでのレガッタ告知 ・海外キールボートレガッタへの日本代表チーム派遣 <ASAFキールボートカップ> FerEast28によるフリートレース ターコイズチーム(ヘルムスマン・井川選手)がJSAF代表として出場。 <ニューヨークヨットクラブ・インビテーションカップ> サマーガールズチーム(馬場オーナー/関西ヨットクラブ)SWAN42のヨットクラブ対抗フリートレースがJSAF代表として出 2、「Mizukami Cup」の事前講習会の支 宮城県で初開催となるマッチレースに向けた事前講習会の講師を派遣。 3. Sailors Eventの運営協力 セーリング経験者で今後キールボートの活動に積極的に参加を希望するセラー ーをHYMCクラブへ参加して体験 4. 大学対抗 & U25マッチレース2018の開催支援 第7回となる25才未満セラーによるマッチレース。優勝チームには2018年開催のユニバーシアード大会に日本代表として出場する権利が与えられた。	10月26日～29日 9月9日～16日 6月25日 8月27日 3月2日～4日	中国・深圳 米国・ニューポート 宮城県仙台市 神奈川県・葉山マリーナヨットクラブ 愛知県・マリーナ東海	7チーム中、総合6位であった。 14チーム中、総合7位であった。 マッチレースのルール講習やケーススタディの座学を実施。海上練習では本番に向かう運営ならびに選手の練習を行なった。本番の「Mizukami Cup」では12チームが集まり、大会が大いに盛り上がった。 葉山マリーナヨットクラブおよび日本ヨットマッチレース協会が主催するイベントへの運営協力をおこなった。 全国より11チームが参加。大会を経るごとに参加選手の技量が上がり、大会も広く認知されつつある。キールボートオーナー、ヨットクラブを中心に毎年継続的に寄付をいただける様になりつつある。

<備考:反省点等>

◆オリンピック準備委員会

(委員長: 河野博文 副委員長: 桑原啓三・小山泰彦)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
①オリンピック・SWCの人材確保と養成 ・オリンピック組織委員会 ・運営役員関係	通期		入部に続き来期4月より中澤・大庭・宮本の3名がスポーツマネージャーとして組織委員会に所属予定。組織委員会の中での人間関係をよりスムーズにしていくことが課題 JURY養成:Finn World Cup, SWC Miamiに書士名派遣 レース運営委員養成: 蒲郡WC前にWSから講師を招聘し講習 IM養成: Finn World Cupに1名派遣
・ボランティア関係			本年度開催されたテーマー、RSX, SWC, ASAFカップの国際大会に登録されたボランティアの中から延べ130名が参加した。オリンピック本番ではボートライバー等がより必要になるため若いヨット経験者を中心にもなる募集を計画する ナショナルチーム、ユースの選手、コーチを対象にECC英会話の受講に日々の丸セーラーズの補助金を活用。ユース合宿に講師を招聘するなど約20名が受講
・英語力の習得			国内初のセーリングワールドカップが10月に蒲郡海陽ハーバーで開催された。 ヨタクグループを中心に地元企業から予想を上回る寄付金が集まり、結果的にはJSAF(日の丸セーラーズ)の支援金はほとんど手つかずとなりそのまま来期ワールドカップに繰り越す見込みとなった。 大会が近づくにつれ、地元の実行委員会とJSAFとの間のコミュニケーションが取りづくなり、把握しきれなくなったことが次回につながる反省点といえよう。
②2017ワールドカップ蒲郡大会の開催	10月		本年度開催された下記の国際レースに日の丸セーラーズから下記経済的支援とボランティアなどの人的支援を行った。 テーマー: 100万円 470Jr World: 100万円 RS:Xワールド: 100万円
③他の国際レース開催会支援	通期		オリンピックウイーク(ASAF CUP): 150万円 予定通りリコート用のRibなどの購入資金として日の丸セーラーズ基金より1000万円を拠出。
④オリンピック強化選手への支援	通期		本年度日の丸セーラーズのオフィシャルスポンサーとしてリエラを、オフィシャルサプライヤーとしてJTBを新たに獲得した。 強化への補助などをめぐる問題についても、来期以降はJTBとの連携を強化してまいります。
⑤日の丸セーラーズ協賛企業確保	通期		SWC蒲郡大会に併せ英文HPを立ち上げたが、担当が多忙でタイムリーに欠けるところがあった。江の島大会では担当者を変更によりタイムリーに対応することを心掛ける。
⑥英文HPの整備・拡充	通期		

<備考:反省点等>

上記通り、概ね目標とした活動を終えることができたが、業務が多岐にわたりかつ複雑になる一方一部の人間に集中せざるを得なくなつたことが最大の反省点。

来期以降、テーマごとに担当を決め、業務の集中化を避けつつ、いかに全体を把握していくかがポイントとなろう。又2020を見据えて一時的に膨らんだ協賛金の管理と的確な経理処理についても心掛けたい。

◆外洋常任委員会

(委員長: 植松 達 副: (事務局長) 鈴木保夫)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
1.外洋推進グループ内の会議開催 ①外洋加盟団体長会議の開催	H29年9月30日 H30年1月20日	鹿児島県霧島市 東京: 岸体育館	全国の外洋加盟団体が集い、外洋における課題や問題点の情報交換を行い 意思疎通を図った。また、外洋専門委員会からの現状報告や活動方針を周知 する中で、各団体の円滑な運営と会員へのサービス向上を図った。
2)外洋常任委員会の開催	H29年6月17日、9月21日、 12月2日、H30年1月11日、 2月24日	東京: 岸体育館ほか	外洋船推進グループの本年度方針、課題の協議調整やワーキンググループ 活動を行い、外洋加盟団体との連携向上とグループ全体の活動の活性化に貢献した。
3)外洋専門委員会合同会議の支援	H30年2月3・4日	福島県いわき市	3日は専門委員会関係者が一堂に会し、各委員会からの報告と関係者の 意見交換・質疑応答を行い、外洋全体が同じ情報を共有することで、今後の 活動の円滑化を図ることもとに、4日には各委員会が分科会や講習会を開催し 知識の向上や有資格者の技術向上に努めた。
2.外洋登録の管理	周年		HPにおいて登録船情報の表示を継続して行うとともに、加盟団体の登録手続き や登録証発行に関して船登録ワーキンググループによる検討をする中で、 加盟団体からの要望等を調整しシステムの構築に反映させ、今後の登録業務 の効率化を推進した。
3.外洋に関する情報の発信	周年		外洋関係会議の議事録を全て公開し、会員に対してできる限り外洋船推進グル ープの活動を明確にしたほか、各レースの情報等をHP上でOn Breezeも活用 しながら情報を発信することで、広く活動をアピール出来た。
4 東京オリンピック2020応援事業の企画実施	周年		東京オリンピック2020を盛大ならしめるため、聖火リレーの海洋版とも言える ヨットによる日本一周フラッグリレーを検討企画し、実施に移した。

<備考:反省点等>

特になし

◆外洋計測委員会

(委員長: 吉田豊 副委員長 林賢之輔)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
外洋計測委員会 会議	6月、1月	横浜	外洋計測の在り方にについて議論があった。国内のレーティングについて意見が分かれたが、最終的に外洋計測が国内で使うレーティングを決める内と権限はない開くことに落ち着いた。
合同委員会会議	2月	いわき	PHRFのハ木さんを派遣した。
ODC委員会 会議	2月	蒲郡	委員長が会議に参加した。外洋計測もODCの傘下に入るべきで、将来的には一つになるという合意に至った。
加盟団体長会議	9月、1月	霧島、東京	世界のレーティングの状況を説明。国内にはデュアルスコアリングについて説明。
レース支援	6月	東京	ジャパンカップについて 実行委員会会議に 参加要請されて参加

<備考:反省点等>

◆ I R C 委員会

(委員長: 川合紀行 副: 竹内誠)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
IRC証書の発給管理	通年		証書発行枚数は348枚。(1月~12月末) 次年度も同様予想。
IRC ルールの管理・運用	通年		RORCとの連絡・情報共有(和訳・発行・解釈)15名で構成される。ルールオーソリティー
証書データーの管理	通年		申告書・証書のチェック等、9名で構成される。テクニカルコミッティー
計測機材の管理	通年		12トンを新規購入した。5トン・12トン・20トンの重量計3機種を保有して運用している。
計測技術の向上と維持、講習	通年		10名で構成される。IRC計測技術委員会
国内主要レースへの支援	8月	シーボニア	ジャパンカップに委員を派遣。インスペクション等を行った。
国際会議(IRCコングレス)への参加	10月	フランス・サンマロ	IRCオーナーズ協会平井会長、IRC/RO角氏が参加。来年開催はアイルランド・ダブリン
全国外洋合同委員会の参加	2月	福島いわき市	IRC委員会報告、国際会議報告を行った。次回は福岡。
IRC委員会会議	3月	蒲郡	業務遂行に必要な事柄、ルールの解釈等を行った。

<備考:反省点等>

◆外洋安全委員会

(委員長: 大坪明 副:川合紀行)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
【基本活動】 1.委員会会議の実施 2.ホームページやフェイスブックでの広報 【外洋合同委員会】 1.外洋合同委員会の開催	2018年2月3日	福島県(いわき市)	3月24日に委員会会議を開催。必要に応じてメールで問題検討。 委員会独自のホームページにて即時性を持った広報活動を実施。 公示に至るほどでは無い周辺情報などの案内、およびホームページの更新情報の掲載などでさらに即時性を高める広報活動。 外洋安全委員会、外洋計測委員会、レース委員会外洋小委員会、ルール委員会外洋小委員会共同主催。 加盟団体15団体、特別加盟団体3団体、出席総数54名。 外洋安全委員会からは、「通信」「J外洋特別規定」「安全航行に向けて」「各団体へのお願い」を発表した。平成30年度は福
【JSAF外洋特別規定普及】 1.JSAF外洋特別規定のメンテナンス 2.JSAF外洋特別規定に関する質疑対応	通年 通年		翻訳や誤記の箇所を訂正。改訂版対応。 メールを中心にユーザーからの質問に回答。各地方では、委員が直接質問などに対応。今後は、特に多い質問に関してQ&A方式でホームページに掲載することがユーザーの便益性。委員の負担軽減に繋がると想われる。
3.JSAF外洋特別規定の啓蒙 4.JSAF外洋特別規定クリニックへ講師 5.JSAF外洋特別規定クリニック会の開催	通年 通年		委員が各地域にて直接ユーザーに啓蒙活動を実施。全国全体では2月開催の外洋合同委員会にて運用の注意事項を発 今年度は実施無し。 レース主催者を主たる対象として(JSAF会員なら誰でも受講可)、規定の成り立ちや規定内容の解説、運用時の注意事項などを輪番講習。
【安全航行啓業】 1.安全航行に関する情報発信 2.秋の安全調査の実施 3.春の安全調査の実施 4-1.安全講習会へ講師派遣	2017年9月23日～10月1日 2018年3月17日～25日 2018年1月13日	兵庫県(西宮市)	ホームページやフェイスブックを通して、新しい機器やサービスなど安全航行に役立つと思われる情報を発信。 艇や装備の点検整備や乗員の訓練などを再認識してもらう事業を実施。あわせて訓練中の画像(静止画・動画)を募集。 艇や装備の点検整備や乗員の訓練などを再認識してもらう事業を実施。あわせて訓練中の画像(静止画・動画)を募集。 外洋内海主催の安全講習会へ講師派遣。75名の参加。 「法改正によるライジャケット着用義務とレースでの例外に関して」「外洋特別規定2018-2019改訂ポイント」「安全意識と責任」「を中心テーマとして3時間の座学講習会」
4-2.安全講習会へ講師派遣	2018年2月25日	福岡(福岡市)	外洋内海主催の安全講習会へ講師派遣。60名程度の参加。 「法改正によるライジャケット着用義務とレースでの例外に関して」「外洋特別規定2018-2019改訂ポイント」「安全意識と責任」「を中心テーマとして2時間の座学講習会」
5.ヒヤリハット体験募集 6.海難防止強調運動へ協力	通年	会議:2017年2月28日	海上保安庁、(公財)海上保安協会、(公社)日本海難防止協会主催の海難防止強調運動に委員長が実行委員委嘱。 全国海難防止強調運動に委員長が実行委員委嘱。 国交省所管の小型船舶安全対策検査委員会へオブザーバーとして委員長が出席。
7.その他 【無線局普及】 1.VHF無線海岸局の管理 2.無線船舶局の普及 3.無線免許(海上特殊無線技士)取得権 4.通信機器・免許などの取得許認可の簡易化に向けての働きかけ、など	通年 通年 通年 通年		71ch/74chの無線海岸局の運用認可。JSAF未登録船の海岸局加入の審査。 民間業者(舵社)主催の免許取得講習会にJSAF会員受講時は10%割引きとなる契約。 民間業者(舵社)主催の免許取得講習会にJSAF会員受講時は10%割引きとなる契約。 イエローブック、AIS-MOBなど、まだ法的に使用が認められていない新しい位置表示システムの機器情報を収集。

<備考:反省点等>

* 外洋特別規定(Offshore Special Regulations)の適用期間は、翻訳作業などの関係もありWorld Sailingの適用期間よりも3ヶ月遅れでの適用(4月1日からの適用)していたが、2018-2019版においては変更箇所が少ないとおり、World Sailingと同じ1月1日からの適用とした。次回以降の改訂においてもWorld Sailingと同じ時期に適用開始を目指したい。

◆アメカズカップ委員会

(委員長: 植松慎 副:西村一広)

事業内容	時期	場所	成果の概要(評価、反省、次年度への課題や反映事項を含む)
ユースアメリカズカップへの挑戦			日本からのユースアメリカズカップへの挑戦は、日本の次世代セーラーに、セーリングを続ける意欲を持たせ、大きな夢を与えた。
<備考:反省点等>			